

沖縄感性・文化産業の 振興に向けた取組について

経済産業部は、平成22年3月の「沖縄地域経済産業ビジョン」中間報告の中で、新たな産業の柱の一つとして「沖縄感性・文化産業」を提案しました。これは、沖縄が今後「何で稼ぎ、何で雇用を維持していくか」の観点から、沖縄固有の価値とも言える独特の感性と文化を産業振興の観点から見直そうという試みです。今回は、「沖縄感性・文化産業振興に向けた



第4回沖縄感性・文化産業シンポジウム

取組」について紹介します。

1. 研究会の開催

平成22年8月から3回にわたって沖縄感性・文化産業研究会を開催し、現代版組踊（肝高の阿麻和利）など、「琉神マブヤー」及び沖縄空手の3つのケーススタディを行い、沖縄の感性・文化の魅力の検証及び課題の抽出を行いました。

平成23年度は「沖縄感性・文化産業の実現に向けた研究会」を設置し、前述研究会の検討結果を踏まえつつ、次の概要のとおり取りまとめました。

まちづくり及び地域おこしのケーススタディでは、那覇市の桜坂劇場等での実験的な取組、沖縄市（コザ）での音楽・芸能文化を活用した各種イベントによる地域活性化の取組、八重山（やいま）での石垣ブランド創造への取組や「伝統芸能の夕べ」による島の「文化創造サイクル」の仕掛け等を分析することにより、文化創造と産業振興が連動する地域の仕組みの重要性を明確化しました。

また、沖縄感性・文化産業の目指すべき姿として、「地域における感性・文化の創造（文化多様性）」

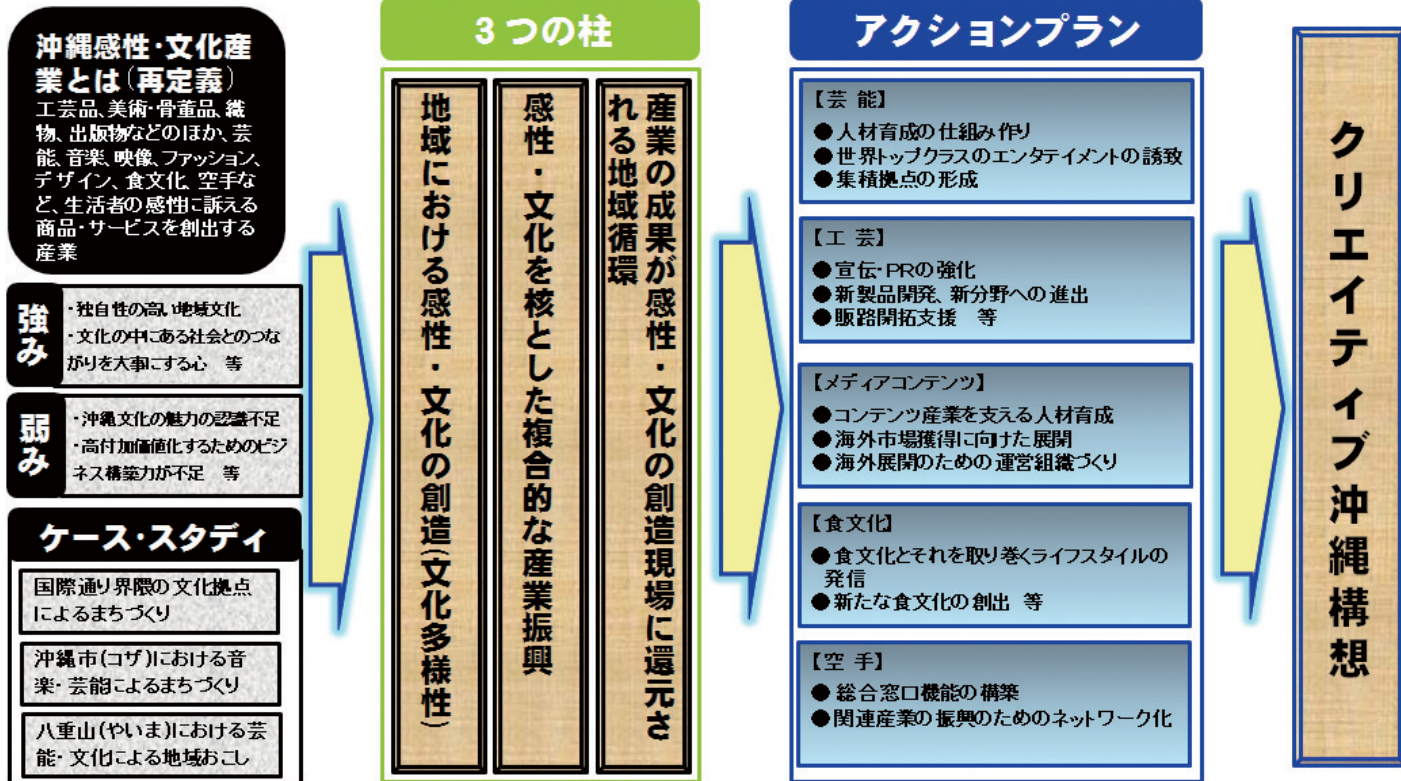
「感性・文化を核とした複合的な産業振興」、「産業の成果が感性・文化の創造現場に還元される地域循環」の3つの柱を提案しました。アクションプランでは、沖縄において産業化の可能性が期待される「芸能」、「工芸」、「メディアコンテンツ」、「食文化」、「空手」の5つの分野について、それぞれの施策のあり方について提言を行いました。

沖縄感性・文化産業の振興を考える上でなにより重要なことは、地域における多様な関係主体の中で核となる主体（ビジョンと実行力をもつ民間事業者など）の取組の中から産業化の芽を生み出し、それらを互いに結びつけていくことでもあります。

「沖縄感性・文化産業の実現に向けた研究会」報告書の結びで、沖縄感性・文化産業の実現を通じて、



第3回沖縄感性文化シンポジウム「In やいま」



沖縄感性・文化産業の実現に向けた研究会

感性・文化産業の普及啓発等を目的に「沖縄感性・文化産業シンポジウム」を下記のとおり開催してきました。

2. 「沖縄感性・文化産業シンポジウム」の開催

沖縄振興と我が国の地域活性化のモデルを同時に達成する取組を「クリエイティブ沖縄構想」と命名しています。地域固有の文化的資源を核として、まちづくり及び地域おこしに取り組んでいくことは、長引く不況と産業の空洞化に悩む我が国の地域経済にとっての生き残り策でもあります。

今後、この「クリエイティブ沖縄構想」が着実に推進されることを期待します。

感性・文化産業についての取組については、こちらのホームページを御参照ください。

<http://ogb.go.jp/move/okivision/okivision.html>

	開催日	開催場所	テーマ
第1回	平成23年3月23日	国立劇場おきなわ	沖縄空手
第2回	平成23年7月16日	ミュージックタウン音市場	音楽によるまちづくり
第3回	平成24年2月8日	石垣市民会館	八重山芸能を活用した八重山振興
第4回	平成24年3月14日	沖縄県立博物館・美術館	戦略的知的財産活用によるメディアコンテンツ産業の振興